

掬水

きくすい

題字・佐藤重義

第 42 号

令和元年7月25日発行

〈事務局〉

秋田市手形学園町1-1

秋田大学教育文化学部
同窓会旭水會 内



拝啓 先輩様

秋田市退職校長会 会長 佐藤 俊彦

先輩、お元気ですか。ご無沙汰しております。先輩とは、だいぶ長い間お会いしていませんが、お元気でしょうか。現職時代、「学校を辞めたら、畑仕事をやるんだ」と言っていましたよね。そして、自分の部屋に囲炉裏を作り、夕方にはハタハタを焼いて、炉辺で酒っこを飲むのが夢だと・・・実現していますか。

○昭和五十年代、私たちが青年教師の時代

先輩たちのリードで、公開研究会に挑戦していたころのことを、今でも思い出します。特に公開授業日の朝のことは、まだ夢に見ます。けなげな生徒を前にして、授業の流れが決まらなくて焦っている自分がいました。授業後の研究会では、先輩たちの一言一言が身に染みて、頷くことしかできませんでした。「あそこで、M雄の発言を生かせなかったことが、お前の敗因だ。」納得でした。でも、この次は、こうは言わせないと心の底では思っています。今度は時間オーバー。「三分もはみ出して、何をやっているんだ。準備不足だべ。」褒められたかったのに、最後の数分で・・・。しかし、そのあとの反省会（飲み会）では、温かなフォローがありました。先輩たちの懐の深さに頼って、何にでも挑戦できました。お蔭様で、自分の授業力も少しは向上したと思います。

学習指導案を作りながら、授業の流れは作業手順ではなく、思考の流れであること。なだらかな概念形成をたどる思考のプロセスを、意図的に仕

組む事の大切さを学びました。同時に、生徒の学習意欲を中心に「学び」として授業を組み立てることの重要さも教えていただきました。その頃です。探究的な学習をセットできていたのは。生徒を信じて、学習の進め方を任せることが、どんなにハラハラするかを実感しました。

「授業実践を支えるために本を読め」という先輩たちからの刺激は、全て私の授業力の血となり肉となりました。心から感謝しております。

○恒例の秋の行事、現職・退職校長会教育懇談会

懇談会は、昨年度二十六回目を数え、大量退職時代を迎えている現状に鑑み、「教師文化の確かな継承に向けて」という題で話し合いました。現職の校長さんたちと話をしていると、この懇談会の輪の中に、先輩たちのお顔を見たいものだ、この頃しきりに思うのです。

先輩たちと共に歩んだ「あの時代」の実践は、秋田の教師の授業力を向上させ、更には、その後継に続く後輩たちの研修意欲に火をつけ、自主研修を充実に向かわせました。現在、全国学力調査において、連続十年以上継続して全国トップクラスを維持し続けていることなど、たくましくも質の高い秋田の教師を育んできた原動力だったのです。

先輩たちのお顔が見たいです。また一緒に飲みましょう。是非・・・。（今年は十一月九日開催）

総会

四月二十七日
協働大町ビル



初めに、平成三十年度にご逝去なさった方々に哀悼の意を表し黙祷を捧げた。

議事に先立ち、佐藤俊彦会長より、昨年度の秋の研修会は東北大会を兼ねており、多くの会員に参加いただき有意義な会となったことに感謝する。今年度の秋の研修会は、県退職校長会の結成五十周年にあたるため記念式典を十月十二日(土)に開催する予定であり、その中でシンポジウムを是非行いたい。テーマは仮ではあるが、秋田の教師の自主的な研修について、的を絞って秋田の未来につながる研修のあり方について話し合えればと思っている。シンポジストとしては、大学教授、現職校長、退職校長を予定しており、1時間半ほど秋田の教師について語っていただく。その裏には全国一の子どもたちを育てた秋田の教師の授業力とはどういうことだったのかということができるだけ語ってもらいたいとの思いがある。

また、秋田市の退職校長会の最大の課題というか私の悩みと言ったらいいのかもしれないが、総会や研修会への参加者を増やしたいという思いがある。さらに多くの皆様に参加

してもらうために、研修会のあり方や集まる機会をどのように作っていくかなどについて話を伺いたいとのあいさつがあった。

○来賓の秋田市教育委員会教育次長嶋崎公人氏からは、学校では、これまで子どもたちのためであればどんな長時間勤務でも良しとするという働き方を長年続けてきた。教師という職業の崇高な使命感がそうさせてきたものであるが、この事が中途退職者の増加、教育学部志願者の激減、地方における教員講師不足に少なからず影響を及ぼしており、教員の多忙化はもはや教員の健康問題にとどまらず学校教育そのものに関わる大きな問題となつていると認識している。本市においては、中教審の答申を始め文部科学省や県教育委員会が示したガイドラインを基に、このたび「秋田市立小中学校における多忙化防止計画」を策定し、学校閉庁日や退校時刻を設定するほか、部活動における休養日や活動時間のルールを定めるとともに部活動指導員制度を導入するなど教員の長時間勤務の是正に努めているところである。しかしながら、教職員定数が据え置かれ、なおかつ学習指導要領の改訂に伴い指導内容が増加する中、勤務時間を短縮することのみが目的となつてしまえば学校は混乱し教員はますます疲弊してしまうものと考ええる。真に働き方改革を進めるためには、国県市の取り組みが学校にとって必要な業務の改善や職員一人一人の勤務時間に対する意識改革に結びつく事が肝要と考える。またこうした取り組みに地域や保護者の理解と協力は不可欠と考える。もし地域や保護者から多忙化防止のせいで学力が低下した、部活動における競技力が低下した等の不満が噴出すれば働き方改革は推進力を失い停滞してしまうことが考えられる。

このような状況を理解いただき教育委員会

および地域の学校に対し指導助言を賜りたい。学校・地域・家庭の三者間における相互理解が一層深まるよう力添えをいただければ幸いであるとの祝辞があった。

○秋田市小学校校長会会長今田智範氏からは、四月初旬に発生した市内中学校の講師による不祥事により、不祥事根絶に向けた緊急提言を各学校に配布するなど対応に追われた日々であった。

現職・退職校長会の協議会では、ここ数年教師文化の確かな継承をテーマに若手教員の人材育成について話し合ってきたが、その前の段階の人間として社会人としての倫理観や法令遵守の意識を育てなければならぬ現状である。現場で具体的にどのような指導や研修を進めればいいのか今後も助言をもらえればありがたい。

明るい報告もある。平成から令和に改元される今年度、小学校長会では十月十七日・十八日に全連小秋田大会が開催される。約二四〇〇人の参加となる。中学校は東北地区中秋田大会が六月二十七日・二十八日に開催される。秋田市校長会の力を結集して素晴らしい大会にしたいと考えている。退職校長会には指導助言を受ける機会も多いと思うのでよろしく願いたいとの祝辞があった。

○その後、叙勲、賀詞受賞者の紹介と新入会員の紹介があった。

議事は、羽川誠氏の進行で、昨年度の会務報告、監査報告(柏谷昭彦監事)、決算、今年度の事業計画及び予算、会則の一部改正について承認された。また、今年度は役員改選の年ではないが、諸般の事情で一部役員の変更を行いたい旨の提案があり、事務局案が提示され承認された。

引き続き、笑顔あふれる懇親会が催された。

平成三十年度 会務報告

月 日	事 項
四・七	第一回幹事会 (新年度組織分掌等)
一四	第二回幹事会 (総会資料検討等)
一九	会計監査
二八	理事会 総会 講演会 懇親会
五・二六	第三回幹事会
七・二六	掬水第四十号、 楽しい研修案内発送
八・一六	現職・退職校長会教育懇談会 打ち合わせ
八・二五	第四回幹事会
八・二六	①楽しい研修会 各駅停車の旅
九・八	臨時幹事会 (秋田市会員用東北大会案内発送等)
九・二九	第五回幹事会
十・六	②楽しい研修会 柳生和大チューバリサイタル 東北地区退職校長会協議会
十・一八	秋田大会〰十月十九日
一一・一〇	第二十六回教育懇話会 「学校経営の活性化のために」 〰一人一人の教員の「教師力」 向上に向けて〰

令和元年度 事業計画

◎活動の重点

- (一) 会員相互の親睦と福利厚生
(二) 生涯学習の充実推進
(三) 現職校長会、
教育関係諸団体との連携協力
(四) 県事業への積極的参加

◎事業計画

- 一 秋田市退職校長会幹事会 年八回
二 秋田市退職校長会監査
四月十八日(木)
三 秋田市退職校長会理事会・総会
四月二十七日(土)
四 楽しい研修①〰⑤ 八月〰二月
第二十七回
五 現職・退職校長会合同教育懇談会
十一月九日(土)
六 現職校長会への入会案内
一月三十〇日(木)

七 会報【掬水】の発行、配布
年二回 八月(四二号) 三月(四三号)
八 叙位叙勲 随時
九 慶弔 随時

令和元年度

秋田市退職校長会役員

顧問	佐藤 重義	千葉 昭
会長	佐藤 俊彦	
副会長	高橋 一郎	伊藤 栄二
監事	八柳 久夫	佐川 眞理
理事	加藤豪之助	羽川 誠
	斉藤 孝雄	大野 進
	三浦 雄一	高橋ゆり子
県代議員	眞井田恭雄	羽川 誠
	斉藤 孝雄	三浦 雄一
	林崎 勝	刈田 茂
県理事	伊藤 栄二	加藤豪之助
幹事長	濱田 眞	
副幹事長	加賀美俊一	
幹事	松田 行正	大山 重幸
	高田 均	三條 正弘
	長澤 公生	阿部 英子
	米澤 喜彦	佐藤 淳
	平塚 和博	茜谷 英也
	佐々木 哲	
	大淵 正俊	

講演会

演題

「秋田パドラーズの活動について」

特定非営利活動法人

秋田パドラーズ会長

船山 仁氏

「秋田パドラーズ」は、雄物川を中心として活動しているカヌー愛好家のグループで、雄物川や秋田県の海岸のクリーンアップ活動や被災地の救援活動、秋田市内の小中学校のカヌー教室開催などの活動を行っています。

講演講師の船山氏は、二〇〇三年にNPO法人秋田パドラーズ理事長に就任以来、秋田地区かわまちづくり委員会委員、国土交通省社会資本整備審議会専門委員、秋田県海岸漂着物対策推進委員、秋田県防災会議委員、秋田県社会福祉協議会「災害ボランティア設置運営マニュアル作成に向けてガイドライン算定」委員、サンパティオ大町協同組合理事長等を務められ現在NPO法人秋田パドラーズ会長として活躍されておられます。



この度は、自然環境保全へ関わることや東日本大震災の支援活動などについてご講演いただきました。

講演要旨

「秋田パドラーズ」はカヌー愛好家が集まって作った団体です。元々はカヌーで遊んでいたのですが、こんなひどい川は見たことがないというぐらい汚れていましたのでこのような活動が自然発生的に始まりました。

今日は「秋田パドラーズ」の活動についてご紹介したいと思います。

パドラーズの活動三つの柱として、クリーンアップ、カヌーを活用した体験会、地域観光メニユーの提案などを行っています。二〇〇三年、NPO法人を作りまして、現在一六〇名ほどの会員がおります。

雄物川についてですが、県南の雄物川町の上流部から始まり秋田市の雄物川の河口まで、秋田県全体の人口の六〇％が住んでいる所を流れている川です。雄物川、子吉川、米代川の三大河川の中で、最も特にゴミの多い川です。

川を見ればその県民性がわかるとよく言われますが、秋田県の県民性はどういうものなのか今考えていただければありがたいと思います。

平成二十三年には、海岸線のゴミも調べてみました。ペットボトル等を含めたプラスティックゴミが問題です。

「ゴミを拾う人はゴミを捨てない」という精神で、カヌーを楽しみながらゴミを十六年間で八十九・八七集めました。参加人数が七、六六九人ほどになります。上流から下流まで一斉クリーンアップをし、どんなゴミが多いのか分類してみると、発泡スチロールとか瓶缶が多い現状でした。学校のカヌー体験会は

要請があればやっています。小中学校での出前講座で講演会をしたり、集めたゴミでアート作品を作り展示する活動もしています。雄物川の水質調査もしましたが、

調査中に不法投棄している現場に遭遇した事もあります。PH、COD、アンモニアを調査しましたが、横手川から下流が特に汚れて大仙大曲のあたりから汚れてきます。このような私たちの活動をしっかり伝えていくことが大事なと考えています。

千秋公園のお堀の調査も行っています。かなり汚れているということで、浄化について私たちの取り組みについて市に話をしてもなかなか取り合ってもらえないということもあります。

平成十五年から三十年までに観光事業モデル事業ということで平成十六年度に雄物川観光交流事業が認められ、カヌーと食文化を組合わせた魅力的なエリアにしようという提案があり、中国系の企業による空港に着いた中国人を秋田の食とカヌー観光をさせるというという企画が、今年の秋から試験的に始まっています。これまで奈良県の高校生や仙台の医学部の生徒をカヌー観光で受け入れてきた事がこういう形になってきました。インバウン



ド事業も一生懸命に取り組んでいます。

どうしてゴミが多いのかを考えてみると、汚れた物を川に流すという宗教的風習が見えてきます。ゴミは捨ててはいない、そこに置いていていずれば流されるという考え方です。私たちは、まずは川に来てゴミ問題を見て欲しいと思います。自然は秋田の宝です。きれいなところに人は集まるが汚いところへは集まりません。美の国秋田といっているがどが美の国なんだと言われるくらい川は汚いのです。一人一個のゴミをポイ捨てると、秋田市でいえば二十万個のゴミが川に流れていくということになります。自己中心ではなく地球益について教えていくことが大事なことでないかと考えます。

東日本大震災の時には隣県での事でありパドラーズの会員の知人が多く、私たちにも何かできないのかという話になり、まずは被災地に行ってみました。震災の翌日、役員が宮古、仙台、大船渡、陸前高田などを回りました。ボランティアを申請しましたが受け入れ体制ができていないということで拒否された場所もありました。支援条件として、要請があるかどうか、宿泊する場所があるかどうか、ガソリンや水が確保できるか、継続的な支援ができるかなどがあり、気仙沼が条件に合っていたのでそこで活動をしました。陸前高田には、できる限りありとあらゆる支援物資を持って行きました。

保育園のいすテーブル、食器類一、五〇〇点、冬物衣料一、〇〇〇点、書物雑誌五、〇〇〇冊ほど用意していったのですが、おちよこ以外全部持って行っていただきました。他にどういう物が必要なのかアンケート

をとると、一八五品目六、〇四四個の要請があり、秋田に帰ってから皆さんに声をかけ物資を集め、一人一人の要請に対して袋詰めをして現地に持って行きました。マッサージも喜ばれました。十月一日に行われた復興祭のために秋田市内三町内の協力を得て竿燈を連れて行った時は、真っ暗な中での竿燈がすごくきれいで心に残っています。気仙沼の仮設住宅に三種町より大根一〇〇本、キャベツ二〇〇個の野菜を持って行ったり、被災地復興応援団とういうかたちで五年ぐらい秋田漫才や音楽をやる人などを連れて行き喜んでもらったこともあります。カヌーを持って行ってカヌーを「夢の架け橋号」と呼んで浮かべるイベントもやりました。

緊急支援はスピードがとても大切です。私たちは、自立していくお手伝いという感覚で活動していました。

二十三年度から三十年度にかけて震災支援活動を二五〇回行い、だんだん少なくなつて去年は二回になりましたが、今は親戚的なお付き合いとなつています。被災地の方と秋田に避難してきている方への支援の仕方は全然違います。送迎ボランティアなどはできるのですが個々の支援はなかなか難しいと感じます。最後に私のボランティア活動のモットーを紹介させていただきます。

- 一、自分にできることをするのは無く自分が出ることをしよう
 - 二、出来ないことは出来る人をお願いしよう
 - 三、出来ても自分でやらない勇気
 - 四、失敗してもその人を責めない・・・
- その失敗をどうしたらうまくいくのかを全員で考え、すぐに対処する

秋田市退職校長会入会者



茜谷 英也

平成三十年度をもって、秋田南中学校を最後に三十八年間の教職を無事終えることができました。校長在職中は、退職校長会の皆様の力強い応援と支援をいただきましたことに感謝申し上げます。

この四月より秋田市教育委員会嘱託職員として、新たな仕事に就いております。この先不安なことも多くあるかもしれませんが、会員の皆様との交流を通し、今後の生活に生かしていきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。



大淵 正俊

旭川小学校に採用されて一年間勤務し、その後は中学校へ。最後の四年間は四ツ小屋小学校にお世話になりました。部活と受験がすべての中学校と、何でもやらせてもらった小学校でした。現在は秋田市子ども未来部の子ども育成課で児童館コーディネーターをしています。午前中は市役所でデスクワーク、午後はからは公用車で児童館を巡回しています。通勤にはなるべく徒歩と昼は弁当。健康的に減量しようとしています。今のところ、平均して一日100gずつ体重が減っています。どうぞよろしく申し上げます。



佐々木 哲

新年度から、秋田市中心市民サービスセンターに嘱託職員として勤務しております。主に生涯学習を担当していますが、幼児教育をはじめ、女性学級、成人学級など、様々な年代の方々を対象とした講座の企画や連絡調整が主な業務です。約三ヶ月たって、ようやく今の仕事にも慣れてきたところです。長年勤務してきた学校現場とは幾分か異なりますが、これまで培ってきた経験を生かし、健康でがんばっていききたいと思っています。



佐藤 薫

多くの方々から面倒を見ていただき、三十七年間の教員生活をなんとか終えることができたことに感謝しながら四月一日を迎えました。

今は、自分の時間が劇的に増えて、家の周囲や猫の額ほどの広さの畑、花壇の草取りに精を出す毎日です。これまで、なかなか手をかけられなかった草取りですが、今は早朝、仕事から帰った夕方、休日は午前も午後もじっくりと時間をかけて額に汗して作業に没頭しています。畑の野菜も去年までとは違って、病気や虫に負けることなく順調に育っているように思える自分がいます。

縁あってお世話になっている第二の職場に通う傍ら、これまでできなかったことに取り組みめる喜びと楽しさを実感する日々です。



佐藤 利正

この三月に、秋田南高校中等部で定年退職を迎えました。中学生の頃に佐々木淳悦先生（元大曲中学校校長）に声をかけていただいて以来、中学校教員となることを目指していましたが、三十八年間高校現場を歩いてきました。幸運にも退職前の三年間、本来の希望であった中学校教育に携わることができ、充実した日々であったと感謝しております。

四月からは、再任用教員として、秋田高校で教壇に立つております。久々の授業に失敗や戸惑いだらけの日々でしたが、最近なんとかペースを掴めてきたと感じております。



高橋 澄雄

この三月、秋田市立桜中学校を最後として定年を迎えることができましたことに、まずは、皆様からいただきましたこれまでのご指導・鞭撻の賜と感謝申し上げます。

三十七年間の教職生活でした。学校教育も時代の変化とともに変遷し、その間、自分として何ができたかを自問自答したりすることもあります。健康で最後まで勤めることができたことに、関わってくれた同僚や教え導いてくださった諸先輩の先生方にただただ感謝するばかりです。ありがとうございました。

現在は、秋田市中心市民サービスセンターにおいて高齢者学級の学習会企画を担当しております。この学習会自体が自分自身にとっても新鮮な学習となっております。

○「楽しい研修会」へのご案内

次の研修会を開催し、会員の親睦を図りたいと思います。関心のあるもの、この機会にやってみようかなと思つたもの、など、お一人何回でも参加できますので、ぜひ、ご参加ください。

お申し込みは、別添「楽しい研修会へのお誘い」の各研修会「申込先」に電話等でお申し込みください（Sメールも可）。その後、詳細を各担当からご案内いたします。たくさんのご参加をお待ちしております。

①各駅停車旅「四県なのに十一個の県境駅！今年は『南のひしゃく』の形に乗る」（日帰り小旅行）

②アトリオン「オルガン クリスマスコンサート」（主催：アトリオン、演奏：小松真由美さん他）

③酒蔵探訪 「天寿（天寿酒造）の旨さを探る！」

④酒蔵探訪 「天の戸（浅舞酒造）の名酒を飲む」

⑤企画展示、コンサート、木版画講座ほか（主催：赤レンガ郷土館）

※来年度、「楽しい研修会」を同好会形式に移行します。同好の士を募り、研修会員の親睦をさらに深めたいと思います。詳しくは別添のアンケートをご覧ください。